

開 議

○町田義昭議長 おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

本日の会議に欠席の通告議員はございません。よって、ただいまの出席議員は定足数に達しております。

本日の会議は、配付しております議事日程第4号をもって進めます。

日程第1 市政一般に関する質問

○町田義昭議長 日程第1、市政一般に関する質問を昨日に引き続き行います。

それでは順次、ご指名いたします。

竹田博一議員の質問

○町田義昭議長 順位9番、議席番号1番、竹田博一議員。

(1番竹田博一議員登壇)

○1番 竹田博一議員 おはようございます。

私は本定例会に当たり、通告している2点について質問させていただきますので、よろしくをお願いします。

名古屋市の河村市長は、減税の実施と議員の定数、報酬を半減すべく提案し、議会と対決しました。その結果はご存じのとおり、市民の後押しもあって、議会の解散、そして選挙になり、定数も報酬も大幅に減ずることになろうとしております。

私は、本市においても財政の健全化を図るための、そして市民の目線に立ち、一般職までも給与カットしている現在、議員こそ率先して報酬カットに取り組むべきものと思っております。それでは質問に入ります。

1番目の婚活支援事業について、市長、そして婚活サポート委員でもあられる副市長にお伺いいたします。

施政方針の中で、3万人都市復活を目指して、2億9,800万円余りの予算を重点配分されました。市の人口数というのは、すなわち市の勢い、力のバロメーターをあらわしているものであります。その点では市長の意気込みが感じられるところです。

そして、市民からの大事な税金を、より効率的に使うことが最も大事なことだと考えます。私が子供のころは、農村社会であるように、農業を営んでいる家庭がほとんどでありました。機械などもほとんどなく、馬や牛を使って田畑を耕し、生活においても車、テレビ、電話、水道もなく、今では考えられない自給自足的な生活だったと思います。

一方、ふだんの生活を見ますと、金はないけれど比較的のんびりして、心のゆとりみたいなものがあつたように思います。そして、そこには必ずいい面でのおせっかい的な仲人をする人があちこちにおりました。一生のうちで3回仲人を成功させれば一人前とも言われていたようでした。

しかし、時代が進むにつれ世の中がせわしくなり、会社勤めの人が多くなり、最高のボランティアである仲人が激減してしまいました。手間のかかる、そして成るか成らないかわからない仲人は姿を消しつつあります。

また、恋愛結婚が多くなったことも原因の一つと考えられます。しかし、皆が恋愛結婚ができるとは限りません。不幸にして家の事情や消極的な内気性格のため、タイミングなどを逃が

+

してしまわれた方も多くおられます。そしてその方たちの大部分は結婚を切実に望む方々であります。

この観点から見ますと、婚活支援事業は実にすばらしい事業だと思います。できるだけ数多くのカップルを誕生させて、多くの子供を産んでいただき、幸せな家庭を築いていただくことを祈るばかりです。ただ、この種の事業は結果が伴わないと意味がありません。そこで、

(1)の22年度の成果についてお伺いいたします。

婚活事業はお似合いの男性と女性を結びつけるためのお手伝いであります。人というのは感情や個性、考え方もおのおの違いますので、非常に難しい面もあると思います。事業の問題点と反省点についてお伺いします。

会員の男女の割合を比べてみますと、女性の方が極めて少数とのことですが、結婚は男性と女性がするものです。会員登録の増員対策、特に女性の会員登録の大小がキーポイントと思われるのか、お伺いいたします。そして、出会いの場は二人を結びつける有意義な場であったのか、お伺いいたします。

また、婚活に参加する会員の真剣なる意気込みが不可欠だと思います。その場所に応じたそれなりの身なりなどが大事と考えます。個性を強く出す意味での格好といいながら、雰囲気を害するような容姿はいただけません。参加する会員のマニュアルはあるのか、お伺いいたします。

23年度は、モンテディオ山形応援ツアー企画のねらいとするところの考え方を詳しくお聞かせください。

次に、2番目の住宅新築・増改築の改築補助事業についてお伺いいたします。

目的は、持ち家住宅の建設を促進することにより、住まい環境の整備・改善を図り、定住者

の誘致による人口3万人復活を促進する糸口とすると同時に、不況期の中、地元関連業界に需要を提供、消費の拡大により景気浮揚を図ることを目的とすることであるとあります。定住者はもちろん、例えばUターン、Iターン者が空き家を購入し、増改築をして少しでも経費の節減につながればと期待するものであります。ただ、ほかの自治体と比較すると限度額が低いことが残念であります。限度額25万円の根拠を伺います。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。(拍手)

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 おはようございます。

竹田博一議員のご質問にお答えいたします。

2点ほどお伺いいたしまして、私の方からは総体的なことを答弁させていただいて、婚活支援事業について詳細は副市長の方から、それから住宅新築・増改築補助事業については建設課長の方から答弁をいたさせます。

まず、婚活支援事業でございますが、これは長井市の行革の中で、かつては10数年前までは仲人制度みたいなものを市が相談員という形で委嘱して行っていたということでございますが、近年、民間のそういった結婚相手を紹介する会社が、紹介サークルみたいなのが大分ふえまして、そんなことから長井市としては民間でやっていることを行政する必要がないんじゃないかという考え方から、なかなかこれを行政として取り組むというのは難しかったというふうに私は認識しております。

しかし、3万人復活という視点から、何としても婚活の支援事業をすべきだということと、あともう一方では幸せを実感できる、そういうまちにするには、やはりよき伴侶を見つける、これが大切なことの一つでありますので、そういった意味で22年度からさせていただいたところでございます。

やはり職業を今、男性に限らず女性もみんな職を持つ時代でありますので、そういった意味ではその職種によって出会いの場が少ないということが、あるいは多いということが差が出てきているんじゃないかと。特に自営業であったり、あるいは農業であったりという場合は、少ない場合が多いんじゃないかと。そんなことから、ぜひ出会いの場を市の方でご協力させていただいたらいいんじゃないかということで、22年度、今年度から始めたわけですが、やはり先発で行っている地域というのは、市はほとんどなかったんですけども、町の方はいろんなところで取り組んでおりました。

そういった実績などを見ますと、やはりなかなか1年、2年では実績を上げにくいということがあるかと思います。長井市の場合は、副市長を中心としてプロジェクトチームみたいなものを組みまして、そしてきょうもご出席いただいております加藤教育委員長の方から委員長をお引き受けいただいて進めているところでございますが、一つだけ私の方から申し上げておきたいと思うのは、これからの出会いの場をどういうふうにして演出するかということでございますが、モンテディオ山形の応援ツアーというのは、実は私の方からこういうのもいいんじゃないかということでちょっと担当の方をお願いした企画であります。

この企画がいいかどうかは、やってみないとわからないと思いますが、竹田議員も参加されたことがあるかどうかですが、昔、県の方の主催で青年の船とかっていうのがありました。これは2週間ぐらいでしょうか、船旅でフィリピンとか行ってくると。現地の青年たちと交流しながら、そして船内でいろんな議論をしたり、これから自分たちの将来を考えたりという中で、かなり多くのカップルが生まれたというふうに聞いていますし、私が知っているだけでも五、六人のカップルがいらっしゃいますんで、そう

いったことが一番いいんじゃないかと。

すなわち、ことしやったのはまず手始めだったものですから、パーティーみたいな形式でございました。そうすると、こういう言い方は語弊あるかもしれませんが、男女とも真剣に結婚を考えて出会いを求めて来るわけなんですけど、やっぱり男性の中でも性格によってはなかなか自分から声をかけられないとか、自然な出会いだと別なんですけども、非常にああいう場というのは緊張します。昔ダンスパーティーみたいなのがあったんですけども、そういった場で、じゃあ女性がいるから声をかけられるかって、なかなかかけられない人もいると思うんですね。

ですから、そういうことじゃなくて、もう少し一緒にいる時間を長くすることによって、あるいは最初から知り合うということが前提の企画じゃなくて、何か観戦をする。これはサッカーでもいいし、野球もいいんじゃないかという意見もいただいておりますが、そういった中で一緒にレクリエーションですか、そういったことをする中から自然に好感をお互い持ったりとか、そういったやり方をすべきじゃないかなということで、企画してもらったところでございます。

詳細はこれから詰めることだと思いますが、詳しいことについては副市長の方から申し上げたいというふうに思います。

2点目の住宅新築・増改築補助事業でございます。議員からは、金額が少額ではないかということでございますが、これは目的としては2つ目的がありまして、1つは経済雇用対策の部分であります。まず第1は、特にこの長井、西置賜の建築業に携わっている方の技術というのは非常に高いというふうにお伺いしております。これは大工さん、あるいは左官屋さん、建具屋さん、そういった技術はすばらしいものがあるんだそうですが、残念ながら住宅の新築・増改築が非常に少なくなっておりまして、ほとんど

+

の方が地元だけじゃなくて、遠いところの現場に行かざるを得ない。場合によっては出稼ぎみたいなことをしないとなかなか生業として成り立たないというような事情があったわけでございます。そういった意味から、何とか地域内の、長井市内の増改築等の需要を喚起するということが前々から要望もございましたし、あるいは議会の方からもいろいろ提案いただきましたが、ようやく23年度から開始したいということでございます。

この金額は決して少額ではないというふうに思っておりますので、これは後ほど建設課長から答弁させますが、あともう一つのねらいは、これは3万人、議員からあった定住人口の増加ということについては、必要条件ではあるんでしょうけども十分条件ではないというふうに思っています。やはり必要十分条件として考えた場合は、そういった支援制度だけではなくて、例えば宅造の事業、これは市で直接することもあれば、民間事業として民間企業が行うものに対して支援する制度とか、置賜の中では高島町が昔からこれはやっております、ですから高島が10年前ぐらいですと人口が若干ふえておりました。これは宅造事業による民間の支援というのが大きいと私は思っておりました、そういったこと。

それから、定住促進のための、例えば村山市が今度取り組むようでございますが、雇用促進住宅を買い受けまして、それを定住促進住宅としてリニューアルする。外から、あるいは市内外からぜひ非常に行政側の支援するような金額で安心して子育てとか生活できるようにという支援制度、これも市議会の皆様からいろいろご提案いただきましたけども、そんな両面から考えなきゃいけないんじゃないかなというふうに思っているところでございます。

ぜひこれから議員がおっしゃるように、人口というのはまだ今3万人ちょっと切ったぐらい

でありますので、まだ今だったら力がかつて10年前から見れば恐らく7割とか6割ぐらいまで下がってますけども、これがまたさらに2,000人、3,000人と減りますと、これは二乗でマイナスになるんだそうですね。そういう研究をされている山形大学の先生がいらっしゃいますけども、そういった意味ではここ10年間で最後のやっぱり力をもう一回取り戻すためには重要な期間だと思っておりますので、ぜひこういった事業についても積極的に取り組みたいと思います。よろしくご指導賜りたいと思います。

私の方からは以上でございます。

○町田義昭議長 新野 潔副市長。

○新野 潔副市長 竹田博一議員の婚活支援事業についての質問にお答えを申し上げたいと思います。

ただいま市長から概括的なお話がありましたけれども、私の方から具体的な婚活支援事業について申し上げたいというふうに思います。

長井市では、22年度から17人の市民の方々に婚活サポーターをお願いいたしまして、今年度は5回の委員会、そして今は月2回の研修や情報交換会などを行いながら活動してまいりました。婚活サポーターの方々には全くのボランティアとして多大なご協力をいただいていたところでございます。

去る2月22日、今年度の活動を振り返っての反省検討会を開いておりますが、そこでは改めてこの取り組みの難しさといいますか、成果、実績を上げることの難しさというものがサポーターの方々から話として出されております。以下、順次お答えしてまいります。

まず、1番目の22年度の成果についてでございますが、婚活サポート委員会の活動といたしましては、1つに会員登録をしていただいた上での紹介活動、お仲人活動ですが、そしてもう一つは出会いの場の設定、これはパーティーなどを行っておりますが、そういう2つの要素で

活動しております。紹介活動では、今までサポーターの努力で5組のお見合いをさせましたけれども、中にはいいところまでいったものがありましたけれども、しかし、いまだ結婚までは至っていないという状況でございます。

一方、出会いをつくるパーティーは2回ほど実施いたしました。7月25日の、これは白鷹町出身のオペラ歌手の文屋小百合さんという方がおられますが、そのコンサートが長井で行われたときに、そのコンサートを介しての交流会でございますけれども、これには男性14名、女性9名の参加がありまして、その中で1組のカップルというか、お互いに気になったということでカップルができましたけれども、これについては結婚には至っておりません。

また、ことし、今年度最大のイベントでございました10月9日開催の、主催事業でございます「NAGAIときめかナイト」というパーティーでは、男性39名、それから女性29名の参加がありまして、その中で9組のカップルが誕生いたしました。その後、このカップルの経過、結果については、個人情報等の壁などありまして追跡調査は行っておりませんが、本人などの報告等ありませんので、今、交際中の人もあるかもしれませんが、現在のところ結婚に至ったという報告はない状況でございます。いずれにしても、人を結びつけることの難しさを感じているところでございます。

次に、事業の問題点と反省はという質問でございますが、先ほど申し上げましたように、婚活委員会では会員登録制をとっておりますけれども、現在、正式に登録している会員は男性が5名に女性が2名です。また、そのほかに各サポーターが責任を持って個人情報を管理するB登録という制度を設けましたけれども、これは簡易登録ですが、男性が12名、女性1名となっております。これを合わせても全体で20名程度にとどまっております。サポーターが登録を

お願いしても抵抗があるのか、特に女性にはなかなか登録していただけないというのが現状でございます。

登録には、市役所に出向いていただくということにもしておりますけれども、それにも抵抗がある方もいらっしゃるのかもしれないということで、年の中間からはNPO法人が運営いたしております、本町にあるまちなちの楽校本町館を月2回利用いたしまして、情報交換会という形で窓口を開いております。そこでサポーター同士の情報交換とか、あるいは一般市民からの情報の提供、あるいは独身男女を持つ両親からの相談などを受け付けてその活動を行っております。

また、山形県では山形お見合い支援センターを立ち上げておりますけれども、県内各地の情報を共有できるシステムを稼働しておりますが、それにも参画しておりまして、県内の登録状況を見ても、圧倒的に女性が少ない。8対2ぐらいで男性が多いというような状況になっております。また、女性には居住地近いところ、長井市での登録に多少の抵抗があるのかもしれませんが、ほかの市町に登録しているという例もあるようでございまして、長井市でもこれらの状況を見まして、やっぱり少し枠を広げて近隣からの、置賜一円とかもっと枠を広げて長井市にも登録できるようなスタイルに変更していきたいというふうにも今考えているところでございます。

次に、会員登録の増員対策はということでございますが、先ほど市長からも話がありましたように、女性の社会進出に伴いまして女性の男性を見る目が格段に高くなっておりまして、それに合わせて必ずしも結婚を望まない女性も多くなっているのを感じます。女性会員の増加が望まれるところでございますが、女性が結婚に対して夢と希望を持てるような環境づくりが大切だなというふうにも考えております。婚

+

活サポート委員会の話し合いの中では、その1つとして、男性会員の魅力度アップが欠かせないということでございまして、来年度、会員登録していただいた上でですが、仮称男磨き講座とか、あるいはマナーアップ教室などの実践講座もあわせて行うようなことにしていきたいということで考えております。

いずれにしても登録会員の増加策としましては、今まで以上のサポーターの勧誘活動、それから企業、事業所、特に女子型の企業とか、そういう会社との連携、あるいはさらなる我々の広報活動というようなことを重点的に考えていきたいというように思っております。

次に、出会いの場は有意義な場所だったのかというご質問でございますが、10月9日に実施いたしました「NAGAIときめかナイト」には、先ほど申しましたように男性39名、女性29名の参加がありました。9組のカップルができましたけれども、結婚したという報告は聞こえてまいりません。その上で反省点は多く出されておまして、まずこれは婚活サポート委員会では、最初にイベントを仕切るノウハウも持ち合わせていなかったものですから、業者に委託した経過がありまして、いろいろその上で話し合いなどもされておりましたけれども、この次からは自分たちでできることは自分たちで企画段階からもうやっぺいというふうな意見も出されております。

それから、こういうパーティーの周知の方法についても課題が出されておまして、いろんな媒体を使うわけですが、応募のきっかけを聞いてみますと、やっぱり県の山形出会いセンターのホームページでの募集とか、あるいは山新の新聞記事とかで見たという参加者がかなりおまして、今後県が委託している山形出会いセンターのホームページには県内のほとんどの婚活イベント情報が掲載されていますので、長井市の場合もそうでしたけれども、アクセス数も

かなり多くなっているようです。今後このようなことに着目しまして、一層効果的な周知方法を考えて参加者を多く募っていきたいというふうに考えております。

それから、議員からは、参加する会員のマニュアルと申しますか、身だしなみのことだと思っておりますが、そういう話がございました。参加を呼びかけるときに身だしなみなどの注意事項とかあったのかということだと思っておりますが、パーティーに申し込んできて、参加を通知するはがきに一般的な注意事項として、不快感を感じさせない服装でのご来場をお待ちしておりますというようなことを書いてございますが、実際を見ますと不快感は別にはないんですが、かなりラフな服装で参加する青年がおります。

ところが、不思議なもので、我々の感覚と違うと思うんですが、きちっと正装してきた人ではなく、Tシャツにジーパンとか帽子などをかぶっているような人が逆にカップルになっているというのがあります。不快感を与えない程度であればある程度やっぺい今の時世に合わせていく必要もあるのかなというふうなことを感じております。

最後に、市長からモンテディオ山形応援ツアーの企画のねらいなどの話がございましたけれども、先ほど話がありましたので、これから具体的にどういふふうにするかということを含めてまいりますが、できれば効果的に展開できるようにモンテディオの試合の日程なども市町村応援デーというのがありますので、それを活用した形で、あるいは試合の前後にいろんなイベントも組み合わせて、要するにより親近感が増してカップルが誕生しやすい雰囲気づくりをねらってまいりたいというふうに考えております。それにはいろいろこれまた婚活コーディネーターなどの指導を仰ぎながら進めてまいりたいというふうに思っております。

最後になります、やはり婚活支援事業というのは、我々サポーターの地道な情報収集とか、あるいは紹介活動、あるいは効果的な出会いの場の創出ということが大事だというふうに思っておりますが、これからいろいろ、先ほど申しましたように結婚を支援する何と申しますかセクターと申しますか、そういうのをふやして企業の方々とか、それから団体の方々とも輪を広げて効果的に取り組めるように基盤をつくっていききたいというふうに考えているところでございます。以上でございます。

○町田義昭議長 浅野敏明建設課長。

○浅野敏明建設課長 おはようございます。

竹田議員のご質問にお答えしたいと思います。

住宅新築・増改築補助事業について、限度額25万円は少額ではないかというような質問にお答え申し上げたいと思います。

このたびの補助金につきましては、1件当たり50万円以上の工事費の5%として、補助限度額を25万円と定めるものでございます。補助限度額につきましては、置賜地区の市町、山形県の制度などを参考にして設定しております。

なお、平成23年度は山形県のリフォーム総合支援事業制度が創設される予定となっております。耐震補強、省エネ化、バリアフリー化、県産木材使用、この4工種のいずれかの工事を含むことが条件となりますが、対象工事の10%、補助限度額が20万円とする予定となっております。

市と県の補助要件に合致した工事の場合は、補助限度額は合わせて45万円となりますので、長井市における補助限度額につきましては、制度創設がおくれたこともあって、他の市町と比較しても高目に設定しているところでございます。

なお、置賜地域の他市町の新築・増改築に係る補助制度について、平成23年度の要綱をお聞きしたところでございます。米沢市では、補助

限度額を一般で5万円、高齢者住宅で7万円としておりますので、県の補助を含めますと最高で27万円ということになります。南陽市では、補助限度額を15万円、県の補助金に該当する場合は県の補助のみというようなことで、最高が20万円ということになります。高島町では、県の補助を含めて補助限度額を25万円と定めております。川西町では、補助限度額を20万円としておりますから、県の補助を含めても最高40万円となっております。小国町でも、同様に県の補助を含めまして40万円となっております。白鷹町では、補助限度額が30万円ですが、県の補助に該当する場合は20万円と定めておりまして、最高でこれも含めますと40万円ということになります。飯豊町では、補助限度額を20万円と定めておりますので、これも合わせますと40万円でございますので、置賜では長井市が一番高額な限度額というふうに定めるものでございます。以上でございます。

○町田義昭議長 1番、竹田博一議員。

○1番 竹田博一議員 それぞれのご答弁ありがとうございます。

婚活支援サポーターの副市長にお伺いしますが、会員登録の申込書があるわけでございますけど、見てみますと写真の張るところがかなり大きくなっておりまして、全身を写せというようなことを書いております。そして写真はL判以上ということで、半ページの大きさとなっておりますけど、こういうことをする意図はどういうものかと。そして、こんなに大きな写真でないだめだということになりますと、なかなか抵抗というかな、写真の張る人がちょっとおじけづいてしまうんじゃないかというような面も考えられます。その点はどうですか。

○町田義昭議長 新野 潔副市長。

○新野 潔副市長 ただいまご指摘の登録のための申込書の体裁と申しますか、それについてご質問でございますけれども、私ども始めたとき

+

にはいろんなところの事例を参考にしてやったわけですが、なかなか試行錯誤でございまして、細部にわたっては配慮していないところもございましたことは事実でございます。

ただいま指摘がありましたように、写真については、やはり今も婚活サポート委員会の中では反省として、余りにも仰々し過ぎるといふか、そういう申込者が引いてしまうようなところがあるというような指摘もあります。そのほか、本人に書いていただくいろんな記載事項、自己PRとか相手に望むこととか、その他特記事項とかいろいろございますけれども、これもちょっと細過ぎるのではないかというような、求め過ぎるのではないかというような反省もあります。

当初、やはり婚活サポート委員会で紹介活動を行うには、きちっとした情報を相手に提供する責任があるだろうというような観点で、写真なりなんかもそういうふうで大判にしたりしたという経過がございますけれども、もう少し登録しやすいような申込書のあり方について検討しまして、それから先ほど話出ました、今までは長井市に在住するか、あるいは長井市に勤務しているか、あるいは長井出身であるかというようなことで、長井市に限って会員登録の範囲を定めておりましたけれども、それを拡大することもありまして、あるいはもう一つ、県との関係で少し様式も変更したいというふうなことがありまして、来年度当初からの様式を変えることで今、検討を進めているところでございます。

○町田義昭議長 1番、竹田博一議員。

○1番 竹田博一議員 ありがとうございます。

モンテディオ山形の応援ツアーのことで少しお伺いしたいと思いますけど、婚活支援事業というのはモンテディオ山形応援ツアーが主じゃなくて、それをさかになして男女の仲をくっつけるというような趣旨だと思いますけど、ホー

ムで観戦というふうな予定でありますけど、ホームですとすぐに目的の場所に着いて、バスの中のいろんな男女の話し合いといふかな、やろうと思ったらもう着いてしまったというようなことになりかねません。

その点、アウェーといふかな、遠くの方に行きますと長時間バスの中におっているいろんな話ができるといういい面もあると思います。できるだけ出会いの時間を長くする工夫も最重要に考えていかなければならないというふうに思います。経費の方は多少かかりますけど、それはある程度負担していただくというようなことになるとは思いますけど、その考えについてお伺いしたいと思います。

○町田義昭議長 新野 潔副市長。

○新野 潔副市長 モンテディオ山形の応援ツアーという企画は、まだこれから具体化、具体的にしていかななくてはならないと思っておりますが、議員おっしゃるとおり、やはり時間を有効に使った上での企画というのが望まれるところでございます。おっしゃったように、最初は仙台か、あるいは新潟でのアウェーの試合を考えておったんですが、今のところいろいろモンテディオ山形の試合のスケジュールを見ますと、どうしても夕方7時からの試合になっておまして、それを済んだ後で帰ってきたんでは相当遅くなって、さらにはあわせて簡単なパーティーみたいなのもしたいと思っておりますが、その時間もとれなくなるのではないかというような心配もしております。

逆に、できれば3時ごろからの試合であればいいんですけども、それがホームでの試合しかないもんですから、その辺、例えば天童市での試合であっても、試合応援に臨む前に何か一工夫して時間をつくって紹介活動とか、あるいは行うなどをして、あと簡単な食事をとった上で応援活動をしまして、その後、終わってから帰ってきてから長井市でまたパーティーみたいな

ものを併用するというようなことを今のところ基本的に考えておまして、その辺、専門家にも相談して効果的にできるようにしたいというふうに考えている、そういう状況でございます。

○町田義昭議長 1番、竹田博一議員。

○1番 竹田博一議員 勝てば祝勝会、負ければ残念会というような会を催すということであり、大変いいことじゃないかなというふうに思うわけでございます。ここに出席なさっている方は大人ですし、夜遅くなったからといって心配する必要はないと私は思います。遅ければ勝手に泊まっていってくださいと、お互いになれば泊まってくると、そしてゆっくりしてくるというようなこともできると。これ無理やりに連れてくるというのも、まあ子供じゃないんですから、そこは臨機応変にすべきだというふうに思います。成功をお祈りするところでありませう。

以上で質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

蒲生光男議員の質問

○町田義昭議長 次に、順位10番、議席番号6番、蒲生光男議員。

(6番蒲生光男議員登壇)

○6番 蒲生光男議員 おはようございます。

一般質問も最後になりました。私の質問項目は3点でございます。市長以下、当局の皆様方には的確なる答弁をお願いいたします。

なお、1番目の質問で農林課長、2番目の質問で商工観光課長、3番目の質問で福祉事務所長の答弁者の記載が漏れましたので、そこは適宜市長からご配慮をいただくようお願いを申し上げます。

2月5日、第7回少年議会が開催されました。

2番目に質問に立った長井高校、後藤祐希議員の質問は、「日本一、幸せを実感できるまち長井」を目指してきたが、どれだけ市民が実感できたか、市長1期目の点数はどれくらいか、というものでした。私が感心したのは、財政についてよく調べられていましたし、2年前の長井高校入学式での市長あいさつを引用し、さらに再質問では3度やりとりがありました。市長の言葉に閉塞感ということが出てきますが、市民が進むべき方向に「はた」を立てて示すべきだ、など聞いていて大変手ごたえのある内容だったと思っております。

できれば、市長答弁だけでなく、関係課長からも答弁の機会があればいいと思いましたが、議員の質問時間がもう少しあった方がいいのではないかと感じたところでございます。今後さらに生かしていただき、実りあるものにしていただければありがたいと思っております。

最初の質問は、明るく健康で暮らせる社会の実現についてであります。23年度の施政方針の表紙に、「日本一幸せに暮らせるまちを目指して」とありますが、まず、幸せが実感できるかどうかということでしょうか。どういう状況が幸せなのでしょう。物質的なものもあるでしょう。もしかすると幸せというものは個々人が置かれた状況の中で感じ方がそれぞれ違うのではないかと思います。まず、市長の思い描く幸せが実感できるということはどのような概念か教えていただければありがたいと思っております。

体が不自由な方は、この体の不自由さがなくなればと思うでしょう。お金に不足していればお金があればと思うでしょう。地位や名誉を欲する人がいれば、全く価値観の違う人もいます。何もかも欲しがるといいますが、欲というものはほどほどがよいのではないかと思います。

しかしながら、共通して言えることは、健康